

# 4(3) 魚類モニタリング

多々良沼・城沼魚類採捕調査説明資料(令和4年6月25日)

NO	種別	科名	種名	1950		1960~2000		2004~2006		2014~2018		2021		備考 2015~2018年の調査及び2021年調査 から考察(城沼は2016~2018及び2021) ※赤字部分は2021年調査を踏まえて記載した。								
				2006開根の報告より				開根らの確認		本協議会の調査		本協議会の調査										
				多々良沼	城沼	多々良沼	城沼	多々良沼	城沼	多々良沼	城沼	多々良沼	城沼									
1	外来種	ウナギ科	ウナギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼では毎年放流あり。両沼とも生息量は変わらず 一時期見られたのは、自然湧上または放流流下?								
2		アユ科	アユ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	城沼では放流あり								
3		キウリウオ科	ウツボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	一時期見られたのは、自然湧上?								
4			サケ科	ウグイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	生息量少ない?(河川生息が適しているから?)							
5		コイ科	アブラハヤ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	生息量少ない?(河川生息が適しているから?)							
6			カマツカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼に多少見られる。城沼は見られず							
7			モツゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼でスジエビに次ぐ採取数。魚類では生息数最大							
8			シナイモツゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	群馬では絶滅							
9			ニゴイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼でやや多いが、城沼では生息量は少ない						
10			コイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	採取個体数は少ないが、生息数は多数と思われる						
11			キンブナ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼ではあまり見られていない。群水試で確保						
12			ギンブナ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼で生息量は多い。群水試で確保						
13		タナゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	群馬では絶滅							
14		ヤリダナゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼では長年見られず。群水試で静岡市産を確保							
15		ミヤコタナゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	群馬では絶滅							
16		アカヒレタビラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	群馬では絶滅							
17		ゼニダナゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	群馬では絶滅							
18		ナマズ科	ナマズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼で生息量は多くはないが、安定して生息							
19		ドジョウ科	ドジョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼周辺で多数生息と思われるが、採捕方法が適していない?						
20	シマドジョウ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼では長年見られず							
21	ホトケドジョウ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼では長年見られず							
22	ギギ科	ギギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼では長年見られず							
23		メダカ科	メダカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼で希少種となっている							
24	ボウ科	ボウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	海からの湧上ができなくなっている?							
25		トウヨシノボリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	生息量少なく、比較的安定して生息							
26		ヌマチチブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼では長年見られず							
27	ハゼ科	ジュズカケハゼ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼では報告なし。城沼では長年見られず							
28		ウキゴリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	生息量が徐々に増えたが、21年城沼で見られず							
29	国内移入種	オイカワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼では安定して生息。城沼は少ない?							
1		コイ科	ハス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼だけで生息量は少ない。城沼見られず						
2			ウツボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼で採取。生息量は少ない						
3			ツチフキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼で生息量も比較的多く、安定して生息					
4			タモロコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼生息量多く、特に多々良沼の21年に多くなった					
5		ホンモロコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼で採取なし。過去には多々良沼だけ見られた					
6		スゴモロコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼で比較的安定して生息。21年城沼で希少					
7		ゼウヒガイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼で見られ。城沼では採取なし					
8		ゲンゴロウブナ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎年多数放流されている					
9		タイリクバラタナゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	生息数比較的多く、21年城沼で顕著な増加傾向					
10		コイ科	ハクレン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	最近ほとんど見られない				
11			ソウギョ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	最近ほとんど見られない				
12			アオウオ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	最近ほとんど見られない				
13		カダヤシ科	カダヤシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	最近ほとんど見られない			
14			ギギ科	コウライギギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼で生息量安定。城沼は21年採取なし			
15		タイワンドジョウ科	カムルチー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	生息量少ないが、安定して生息			
16			オオクチバス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼で生息量も比較的多く、安定して生息			
17		バス科	コクチバス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	城沼2016~採捕確認なし。繁殖は少ないか?			
18			ブルーギル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	21年採捕確認多々良沼で増加。城沼で減少			
19	ドンコ科	ヨコシマドンコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	多々良沼で繁殖傾向。城沼で21年初めて確認				
20	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	確認数は減少。繁殖は少ないか?				
21	外来種	イワナ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎年湧上あり			
22		テナガエビ科	スジエビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	両沼で採取数圧倒的に多く、安定して生息		
23		テナガエビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	生息量も比較的多く、安定して生息		
24	ヌマエビ科	ヌマエビ類	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	採取数は少ないが、岸部で安定して生息		
25	タニシ科	ヒメタニシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	採取数は少ないが、実際の生息数多いと思われる		
26	イシガイ科	ドブガイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	採取数は少ないが、タナゴ類の繁殖に不可欠	
27		イシガイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	採取数は少ないが、タナゴ類の繁殖に不可欠	
28	ヌマガメ科	ミシシッピアカミミガメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	在来のイシガメ。クサガメは採取なし	
29	アカガエル科	ウツガエル(幼体)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	安定して生息か?
30	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	安定して生息
魚類種数				26	30	22	26	32	25	25	23	26	20									
エビ・カニ・貝類種数										8	10	8	10									
総種数				28	30	23	26	32	25	33	33	34	30	マルタニシ(21年)								

※1 確認標の○印は調査で確認されているもの(◎印は生息数の多いもの)を示す。  
 ※2 確認標の△は開根調査で確認されていないが、開根以外で確認されている。  
 ※3 表中種名欄の背景を塗りつぶしたものは「特定外来種」を示す。  
 在来魚類のうち採取・発見がなく絶滅が心配される空欄  
 特定外来種であることを示す

採入・外来種がかつて生息したのち生息がないことを示す空欄  
 在来魚類の生息が危ふまれ、注意が必要であることを示す空欄

# 4(3) 魚類モニタリング

城沼・多々良沼にゆかりの魚たち

(令和4年6月25日)

◎コウライギギ (特定外来生物) 生息地: 中国、朝鮮半島、シベリア



◎ヨコシマドンコ (外来種) 天然分布: 中国、朝鮮半島



◎ブルーギル (特定外来種) 天然分布: 北アメリカ大陸



◎オオクチバス (特定外来種) 天然分布: 北アメリカ





# 4(3) 魚類モニタリング

◎ウキゴリ（在来種） 天然分布：北アメリカ



◎タイリクバラタナゴ（外来種） 天然分布 中国大陸東部、台湾  
両沼で比較的多く生息していた。



◎タイリクバラタナゴ（外来種） 天然分布：中国大陸



◎ミヤコタナゴ（城沼の在来種）群馬では絶滅か（国指定天然記念物）



# 4(3) 魚類モニタリング

## 多々良沼・城沼の生息魚類・・・昔と今

令和4年6月25日説明資料

池沼名		生息魚種数(=採捕魚種数)			1950年→2018年までの変化 今	2018年→2011年までの変化 今
		1950年 (昔の文献)	2014~2018年 (本協議会調査) 今	2021年 (本協議会調査) 今		
多々良沼	在来種	22	11	12	①1950年に生息したワカサギ、ウグイ、シナイモツゴ、タナゴ、ヤリタナゴ、ゼニタナゴ、シマドジョウ、ホトケドジョウ、ヌマチチブ、キンブナ、ギバチ(計11種)が採捕されない ②メダカが希少 ③モツゴの生息数が突出して増加 -11	①モツゴ、フナ類、採捕数が大幅増加 ②ウグイが採捕された +1
	国内移入種	4	8	8	①ハス、ワタカ、ツチフキ、スゴモロコ(4種)が新しく採捕 -4	①タモロコ、スゴモロコの採捕数が増加傾向 0
	外来種	2	6	6	①コウライギギ、オオクチバス、ブルーギル、ヨコシマドンコ(4種)が新しく採捕された +4	①ブルーギル採捕数かなり増加 ②ヨコシマドンコが増加傾向 ③コウライギギは減少傾向 0
	計	28	25	26	①生息魚種数が3種減少 ②在来種が11種減少し、国内移入種が4種・外来種が4種増加 -3	①1種(ウグイ)が増加 +1
城沼	在来種	24	11	10	①1950年に生息したカマツカ、シナイモツゴ、タナゴ、ヤリタナゴ、ミヤコタナゴ、アカヒレタビラ、ゼニタナゴ、シマドジョウ、ヌマチチブ、キンブナ、ギバチ、ボラ、ジュズカケハゼ(計13種)が採捕されない ②メダカが希少 ③モツゴの生息数が突出して増加 -13	①モツゴ採捕数が大幅増加 ②ウキゴリが採捕されなかった -1
	国内移入種	4	6	5	①ワタカ、ツチフキ、スゴモロコ(3種)が新しく採捕 ②ピフヒガイが採捕されなかった +2	①スゴモロコの採捕数が大幅増加 ②オイカワが採捕されなかった -1
	外来種	2	6	5	①コウライギギ、オオクチバス、ブルーギル、コクチバス(4種)が新しく採捕された +4	①タイリクバラタナゴが増加傾向 ②ブルーギルが減少傾向 ③ヨコシマドンコが初めて採捕 ④コウライギギ、コクチバスは採捕なし -1
	計	30	23	20	①在来種が13種減少し、国内移入種が2種、外来種が4種増加 ②生息種数は7種減少 -7	①4種が減少(ウキゴリ、オイカワ、コウライギギ、コクチバス) ②1種(ヨコシマドンコ)が増加 -3



## 4(4) 協議会実施事業提案表(要約)

番号	関係部会	提案者	実施目的・目標	実施内容	実施状況
1	親水	専門委員	愛着の創成、環境意識の向上、地域外からの交流人口の呼び込み	レクリエーションアクティビティの導入（カヌーやハス駆除のレクリエーション化）	○
2	親水	事務局	沼の景観向上	沼周辺のゴミ拾い	△
3	親水	個人委員	ハスの増殖抑制と安易な植物の持ち込みに対する危険性啓発	イベントとしてのハス刈り取りと事後の経過観察	△
4	親水ほか	専門委員	上にほぼ同じ	上にほぼ同じ	△
5	水質	団体委員	水性植物の生育環境改善のための水質向上	希少種の生育に適する水源の検証	△
6	水質	事務局	微生物を用いた水質改善	一般的に入手可能な材料で培養可能な「環境浄化微生物」の効果検証	□
7	生態系	専門委員	沼で繁茂しているハスの抑制・適正管理	ハスのDNA調査による品種、分布等の調査	□
8	生態系	専門委員	外来植物等の除去、在来種の復元	オオキンケイギク、ハルシャギク、セイバンモロコシ、オオブタクサ、オオマリコケムシを対象とした駆除、カンテンコケムシの復元	◎
9	生態系	専門委員	自然環境変化の把握	野生植物のモニタリング	◎
10	生態系	事務局	樹木の適正維持管理	植物モニタリング	○
11	生態系	団体委員	野鳥観察棟の新設		△
12	親水	専門委員	多々良沼・城沼の親水性の向上を図るため、全天球映像や動画などのバーチャル映像を活用して多々良沼・城沼の魅力資源を紹介し、利用推進に貢献しようとするもの。	多々良沼・城沼のバーチャル映像づくり	◇

(凡例)

◎:実施中

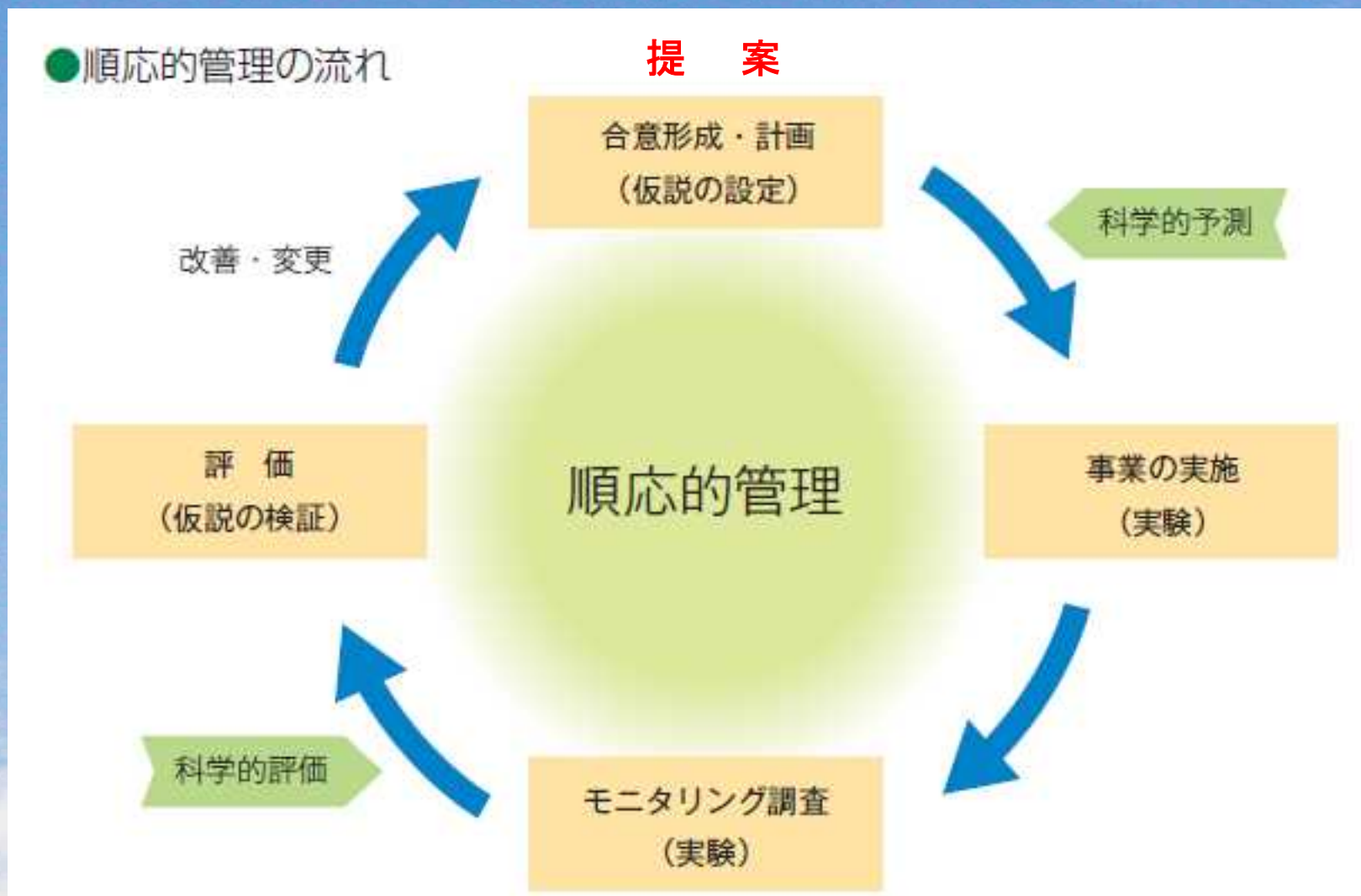
○:一部実施

△:未実施

□:実施済

◇:今年度実施

## 4 (4) 協議会実施事業提案表



## 4 (4) 協議会実施事業提案表

1. 実施目的・目標

2. 実施内容

3. 実施場所

4. 実施時期

5. その他

6. 提案者

7. 提出先

〒374-0052 館林市栄町23番1号  
館林土木事務所 都市施設係 宛て

【メール】

アドレス:tatedo@pref.gunma.lg.jp

様式

多々良沼・城沼自然再生事業  
協議会実施事業提案表

実施目的・目標

実施内容

実施場所

実施時期

その他

提案者

・上記にご記入のうえ、「館林土木事務所都市施設係」(〒374-0052 館林市栄町23番1号)宛てご提出いただくか、上記内容をメール(tatedo@pref.gunma.lg.jp)にてご提出していただいても結構です。



# バーチャル映像を活用した多々良沼・城沼の 利用推進プロジェクト(案)

東洋大学東海林ゼミ

## 1. 目的及び実施体制

多々良沼・城沼の親水性の向上を図るため、全天球映像や動画などのバーチャル映像を活用して多々良沼・城沼の魅力資源を紹介し、利用推進に貢献しようとするもの。制作作業は、東洋大学国際観光学部東海林ゼミの3年生・4年生（計31人）が東海林克彦教授の指導監督のもとで実施。

## 2. 制作する映像やガイドマップ ※令和4年度は多々良沼を対象として選定

### (1) バーチャル利用案内の作成

- ・ ストリートビュー
- ・ ホームページ（簡易版）
- ・ プロモーション動画（簡易版）
- ・ 空撮写真や動画

### (2) 利用案内マップの作成

- ・ ウォーキングガイドマップ
- ・ みどころマップ